

高原の文化都市 四季の風薫る宇陀市をめざして



市の花（すずらん）



市の鳥（うぐいす）



市の木（ひのき）

宇陀市誕生から8年目を迎えました。

この間、極めて厳しい財政状況の中、平成20年度を初年度、目標年次を平成29年度とする宇陀市総合計画（基本構想・基本計画）をスタートさせ、「自然と共生し、歴史・文化が育む ふれあいと活力あるまち“宇陀市”」を将来像とし、新市の本格的なまちづくりを行ってきました。

これまでの行政運営においては、新たな施策・事業の展開が主要な役割であったように思います。しかし、急速に進行する過疎高齢化、人口減少、地域経済の低迷など、本市を取り巻く環境も大きく変化しています。

こうした社会背景を踏まえるとともに、今日までの成果を踏まえ、選択と集中によって市の将来像の完成に向けた取組を継続するために、このたび平成25年度から平成29年度までを計画期間とする後期基本計画を策定しました。

健全な財政運営の堅持を基本としつつ、本市の直面する様々な課題に的確に対応していくため、本計画では、今後5年間で特に重点的に取組むべき重点テーマを掲げ、分野横断な視点から取組むものとしします。

地方分権、地域主権の大きな流れの中で、いろいろな分野において市民のまちづくりに対する意識が高まりつつあり、宇陀市には自然環境、歴史文化など素晴らしいものがあります。

宇陀市の地域経済を活性化を図るため「人、物、お金」が市内で循環する仕組み、そして、宇陀市の社会環境、自然環境に合った新たな「宇陀市モデル」を皆さんと共に作って行くためのマネジメントをしていくことを基本コンセプトとし、これからのまちづくりを目指します。

このような中で、「高原の文化都市、四季の風薫る“宇陀市”」を目指して、後期基本計画の実現に向けて、努力を積み重ね全力を尽くします。

結びに、本計画を策定するにあたり、ご尽力を賜りました総合計画審議会委員の皆さまをはじめ、貴重なご意見、ご提言をいただいた市民の皆さまに心から感謝とお礼を申し上げます。

平成25年3月

宇陀市長 竹内 幹郎